

令和4年冬 子ども図書館おすすめ本

★^{ようじ}幼児におすすめの本^{ほん}★

★『^{にほん}かさじぞう ^{むかしばなし}日本の昔話』

^{せ た て い じ} 瀬田貞二/^{さいわ}再話 ^{あ か ぼ す え き ち} 赤羽末吉/^が画 ^{ふ く い ん か ん し ょ て ん} 福音館書店



むかし、びんぼうなおじいさんとおばあさんがいました。お正月のもちをかうため、おじいさんは作ったあみ^{しょうがつ}笠をうりに出かけましたが、うれません。かえりに、ふぶき^{なか}の中でさむそうなおじぞうさんたちに^あ会って、おじいさんは笠をぜんぶあげました。すると、よる、そりひきの声^{こえ}がして…。心^{こころ}があたたまる昔話^{むかしばなし}。そぼくな語^{かた}りと、日本^{にほん}らしいゆきのけしきが、このお話^{はなし}にぴったりです。

★『ゆきのひ』

エズラ=ジャック=キーツ/^{が ん え}文・絵 きじまはじめ/^{やく}訳 ^{かいせいしゃ} 偕成社



あさ、ピーターが目をさますと、外^{そと}はゆきがたくさんつもっていました。ピーターはあかいマントをきて外にとびだします。ゆきのうえを^{あし}足あとをつけたり、ゆきだるまをつくったり、ゆきの山^{やま}にのぼってすべりおたり…。はり絵やきり絵でえがいたゆきのせかいから、ピーターが感じ^{かん}たゆきのつめたさや、おどろきやよろこびが、^{つた}伝わってきます。(コルデコット賞受賞作品)

★『ふゆめがっしょうだん』

とみなりただお もぎとおる しゃしん ちょうしんた ぶん ふくいんかんしよてん
富成忠夫・茂木透/写真 長新太/文 福音館書店



うさぎかな？コアラかな？かおに見えるけど、
これはみんな、ふゆの木のめを、大きくしたし
ゃしんです。「みんなは みんなは きのめだ
よ」—いろいろな“かお”に見える木のめたちが、
はるをまちながら、うたっています。ふゆのこ
うえんや、はやしの中なかで、よくみると、いろんな
かおの木のめに出であ会えるそうです。いろんなふ
ゆの木のめがたのしい、しゃしんえほんです。



しょうがっこう ねんせい ほん
★小学校1・2・3年生におすすめの本★

★『せかいいちおいしいスープ』

マーシャ・ブラウン/文・絵 こみや ゆう/訳 岩波書店



むかし、おなかをすかせた三人のへいたい、せんそうから帰るとちゅう、一つの村へたどりつきました。へいたい達はへとへとだったので、食べ物とねどこを分けてもらえるように村人たちにたのみますが、村中からことわられてしまいます。そこで、はらぺこのへいたい達はそうだしあい、「王さまにもお出した石のスープ」をつくることにしたのです。石からできるスープとは、いったいどんなものなのでしょう？

ゆきまど
★『雪窓』

あわ なおこ/文 やまもとたかし/絵 かいせいしゃ
安房直子/文 山本孝/絵 偕成社



山のふもとの村に、おでんの屋台をやっているおじさんがいました。おでん屋さんの名前は「雪窓」。ある冬も近い日、雪窓には変わったお客がやってきます。「三角のふるふるっとしたやつください。」そう言ったのは、なんと山のためきだったのです。冬の夜、ぽつりと明りの灯る屋台・雪窓をめぐるやさしいお話です。

★『^{くるま}車のいろは空^{そら}のいろ！ 白いぼうし』

あまんきみこ/^{さく}作 北田卓史/^え絵 ポプラ社



まつい さんの ^{そらいろ} 空色のタクシーには、色んなお ^{きやく} 客が乗ってきます。「ほん日は ^{ゆきてん} 雪天なり」というお ^{はなし} 話では、^{さむ} 寒い冬の日に松井さんが一人の ^{しんし} しんしを乗せますが、お客はお ^{はら} 金を払わずおりにてしまうのです。しんしを ^お 追った先で、松井さんを ^{まち} まちうけていたのは ^お たくさんの ^{きつね} きつね達。話を ^き 聞くと、どうやら ^{きつね} きつねのコンクールが ^{ひら} 開かれるようで……。松井さんと ^{どうぶつ} 動物たちの ^{ふしぎ} 不思議な ^{こうりゆう} 交流の ^{ものがたり} 物語。シリーズ ^{ぜん} 全 ^{かん} 三巻。



★小学校4・5・6年生におすすめの本★

★『大きな森の小さな家』

ローラ・インガルス・ワイルダー/作 ガース・ウィリアムズ/画

おんちみほこやく ふくいんかんしよてん
恩地三保子/訳 福音館書店



百年以上前の北アメリカ。大きな森の小さな丸太小屋に、少女ローラは父さんと母さんと姉さんと妹と暮らしていました。きびしい大自然のなか、生活するものは父さんと母さんの手作りです。物語は冬の前の食料の準備から始まり、雪にメープルシロップをたらしたキャンディなどおいしいそうな食べ物がたくさん出てきます。家族みんなで助け合いながら暮らす一年間が、描かれます。

★『ルドルフとイッパイアッテナ』

さいとうひろし すぎうらはんも こうだんしゃ
斉藤洋/作 杉浦範茂/絵 講談社



飼い猫のルドルフは、あることからトラックに乗って遠くはなれた東京に来てしまいます。助けてくれたのは文字がよめるボス猫イッパイアッテナ。のら猫の生き方と教養を教えられ、ルドルフはのら猫の生活を始めます。が、住んでいた町と飼い主だったリエちゃんのところに戻りたい気持ちは変わりません。ある日、元の町に帰れるかもしれないことになって…。猫たちの友情の物語。

★『雪の結晶^{けっしょう}ノート』

マーク・カッシーノ、ジョン・ネルソン/作 千葉茂樹^{ちばしげきやく}/訳 あすなろ書房^{しよぼう}



雪の結晶^{けっしょう}は、どのようにできるのでしょうか。それは、空の上の小さなあるものからできているのです。では、雪の結晶は星や板の形などどうして色々な美しい形をしているのでしょうか。—そんな、雪の結晶の不思議を教えてください。美しい雪の結晶の写真がたくさん楽しめます。雪の結晶の観察のしかたものっていますので、自分の目で見なくなったら、ぜひ挑戦^{ちようせん}してみてください。

